



特別号  
令和3年度  
川越市立  
川越第一  
中学校  
学校通信部  
責任編集

# 修了式を迎えました

## 新たなスタートへ

本日、令和3年度修了式を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は、2学期の分散登校や新たなオンライン授業、行事の縮小や中止、また、長期に渡って部活動の制限等があった中での教育活動となりました。このような状況の中でしたが、3月15日に行われました本校の第75回卒業式では、卒業生百七十七名が立派に卒業式を終え、本校を巣立って行きました。

1年生、2年生の皆さん、本日、令和3年度の修了式を迎え、どのような気持ちを抱いたでしょうか。今年度、皆さんは、3年生の先輩方の背中を見ながら、学習、部活動、行事に精一杯取り組み、大きく成長することができました。3年生を送る会でも、2年生、1年生とともに、創意工夫を尽くし、心のこもったメッセージを3年生に伝えてくれました。4月からは、いよいよ2年生は、最上級生として、1年生は、初めて先輩としての学校生活が始まります。若竹のように、4月から力強くしなやかに、新たな学校生活を送って欲しいと願っています。

保護者の皆様、本年度、本校の教育活動に對しましてご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございました。お陰様をもちまして、本日、修了式を迎えることができました。来月から新3年生、新2年生として、お子様のさらなる成長をお祈りしております。なお、本校は、来年度、各クラス5クラス、そして、本校で初めて特別支援学級を設置する予定です。

本号では、本日の修了式で「3学期を振り返って」を発表しました1年生・〇〇さん、2年生・〇〇さんのメッセージと、2年生・〇〇さんの卒業生への送る言葉を紹介させて頂きます。

### 1年生代表



おはようございます。初めて一中の校門をくぐり、中学生としての

新たな一歩を踏み出したあの日から、早くも一年が過ぎようとしています。そこで、この一年間を振り返るとともに、2年生への進級に向けて心がけたいことを、学年を代表してお話したいと思います。◆私たちの中学校生活一年目は、やはり新型コロナウイルス感染症に大きく影響されたものとなりました。常に距離を保つことを意識させられた日常、小規模での開催となった学校行事、度々停止とされた部活動など。それでも、委員会活動や部活動での小学校のときとは違った上級生との関わりや、学級会や行事への取り組みでの学年・クラスの仲間との関わりの中で、そして、自分自身との闘いであること知った定期テストや多くの授業課題を乗り越えることで、私たちは、大きく成長することができたと感じています。協力して何かを成し遂げたときの達成感や清々しさ、お互いのことを気遣い、思いやって助け合うことがあったかき。すべてが、中学校生活の経験の中で学んだことです。◆それは、進級のため

の準備期間「2年生の0学期」としてこの3学期においても、さらに深く実感し、高めることのできる機会に恵まれました。三送会では、準備委員を中心として、当日、体育館に入れなかつた人たちも含め、一学年の全員が三年生への感謝の気持ちを伝えようと協力し出し物や装飾をつくり上げました。残念ながら中止となつてしまいましたが、校外学習に向けた取り組みの中では、班で協力して見学場所を調べたり、ルートや時程を計画したりすること、自主性、計画性、協調性を磨くことができました。◆また、普段の生活の中でも、より厳しく感染症対策を意識したり、基本的な生活習慣の土台となる「中スタンプ」の徹底を目指したりして、当たり前前にできることのレベルアップを図りました。◆四月からは2年生となり、初めての先輩ができていきます。そこで、心がけていきたいことが二つあります。一つ目は、当たり前前のことを積み重ねていくことです。一中スタンプを身に付け、手洗いの徹底や三蜜を避けることといった感染症対策にも気を



### 2年生代表



抜かないことといった、これまでこなし続けてきた「当たり前」について、より高い意識をもって自主的に取り組むことで、一段階上の「当たり前」にしていきたいと思えます。二つ目は、「思いやり・助け合い」を大切にすることです。クラスの中では自然と行動に表せるようになってきました。新しいクラスの中にも、新しい仲間、入学して間もない不安を抱えた新入生にも、思いやりの気持ちをもって接することができれば、きっと「頼れる先輩」になれると思えます。2年生としての生活では、これまで以上に自分たちの力で物事を成し遂げられるよう、この一年間の学びを大切に生かしていきたいと思えます。

寒さも少しづつ落ち着き、いよいよ中堅学年としてのこの一年も、今日で最後となりまして。そこで2学年を代表して、これまでの生活振り返るとともに、進級に向けての決意を述べたいと思います。◆私達の2年生としての中学校生活には「例

年通り」というものが昨年と同様、とても少なかったように感じます。行事の中止や延期、合唱祭のマスク着用による開催をはじめ、楽しみにしていた多くのものが新型コロナウイルスによって変化していききました。その度に悲しい思い、もどかしさ、思いをしたら人も多かったです。しかし、そんな状況下でも、学年としての成長は確実に見られました。例えば、思い

やりを持った行動が多くなったり、自ら行動し挑戦しようとしたりする人が増えたことです。◆私のクラスでは、普段の学校生活で欠席者へのサポートを積極的にしている人が増えました。また、学年のリーダーの役割に、初めて挑戦した人も多くいました。こうして、中堅学年としての自覚が生まれ、支え合い笑いが合う学年へと少しづつ

つ成長していききました。◆また、二年生となり、先輩だけでなく後輩と過ごす日々が多くなってきたことよって、先輩としての自覚も芽生えていききました。はじめは、後輩との接し方に戸惑った人も多かったのではないのでしょうか。しかし、今まで自分たちが先輩方にならざるを得ない状況に思いついて、行動に移しました。その中で自分から後輩に声をかけたり支えたりしている人も多かったです。◆先輩方の偉大さも改めて感じました。今までは先輩方が学校を引っ張ってくれました。しかし先輩方が卒業した今、学校を引っ張っていくのは私達です。これから青学年らしく伝統を引き継いでいく為にも、今の青学年の課題としっかりと向き合わなければなりません。◆私は、青学年全体でルールに対する意識が低くなっていると考えます。例えば、鎌倉での校外学習ではお金の管理が課題として挙がりました。しおりの紛失、記載漏れなど、意識の低さが行動に現れました。また、普段の学校生活では、一中スタンプカードへの意識の低下も見られました。そこで評議委員会を中心に呼びかけを行うことで、徐々に現状を改善させていきました。◆

二年生となって自分たちが物事を進める機会が増えた半面、当たり前になるべきことなど、他のことへの意識が低くなってきたのだと考えられます。しかし青学年として、このような課題を一つ一つ改善していくことで、さらに良い学年へと成長する事ができるのではないのでしょうか。そしてこの課題を乗り越えるためには、まさに学年目標にもある「支え合い」が必要なのではないでしょうか。◆春休みが終わり、新学期となり、いよいよ最上級生となります。つまり、一中の鏡になるのです。今までよりさらに、自覚を持った行動が必要とされます。良いところは最大限活かして、課題は青学年全員で協力して解決していきましょう。また、三年生という事は、いよいよ進路選択をする時期ともなります。一言で「進路」といっても、数え切れないほどの道があるでしょう。◆進路選択は高校に行くか行かないかだけではありません。もちろん進みたい道が決まっています。しかし、しっかりと向き合うことが大切です。どんな目標を

掲げて、そのためにどんな努力をするのか、目標や結果に見合った努力をしていきました。◆青学年として歩む最後の一年。皆さんはどんな一年にしたいですか。私は青学年全員が笑顔で終われる一年にしたいです。それまでには色々なことがあるでしょう。◆しかし、青学年全体でまとめ、協力して、支え合いながら私たちが一年を過ごしていきたいと思います。

冬の寒さがやわらぎ、春の日差しが心地よく感じられる季節となりました。三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。◆日々、絶えず見えない脅威に晒され、多くの行事が満足に行えなかったこの二年間。そんな状況下でも、先輩方は、様々なことを私達に教えてくださいました。一中生として目指すべき姿を、その大きな背中を示してくださいました。◆まず私達の脳裏に浮かぶのは、先輩方の「何事にも本気で、真剣に取り組む姿」です。体育祭では、元気な声で「I! T! P O N!」と言いつつ、ラジオ体操をする姿が忘れられません。本気でバカをやり、全力で楽しむ姿は、本当に素晴らしいと感じました。その姿に感動し、私も頑張りたいと思いました。◆一方、先輩方は、クラス全員で一つとなり、真剣に練習に取り組み、素晴らしい合唱を作り上げてくれました。先輩方の持つ大きな力を、改めて感じました。◆次に思い浮かぶのは、先輩方の「明るく親しみやすい姿」です。先輩方との限られた交流の場であつた部活動では、先輩方の方から積極的に話しかけてくださいました。その優しさや明るさに安心感を抱き、私達も気軽に先輩方と話すことができました。委員会活動でも同様です。評議委員会では、二年生が活動の説明をしたとき、先輩方は、挨拶五箇条プラス一言の実演を、頼まれ

てすぐにやってくださりました。私の友達が悪ふざけでした無茶振り、困惑しつつもすぐ対応してくださり、どの先輩も優しく、ノリの良い、明るい先輩方なのだなと思えました。◆どんな時も、笑顔で楽しもうとする姿、まずは自分自身でやってみせ、教えてくださる姿が、とても印象的でした。コロナ禍で、初めてのことも多い中、先輩方は様々な工夫を凝らし、常に私達を引っ張ってくださいました。◆そんな先輩方への感謝と憧れの気持ちは、これからも決して変わりません。◆今まで頼りにしていた先輩方が卒業されると思うと、寂しい気持ちでいっぱいになります。この状況下により、一中の伝統を知らない私達にとつて、これから本当に一つを引っ張っていくことができないのか、伝統を引き継いでいけるのかという不安も常に付き纏います。しかし、先輩方に示していただけ、二つの「姿」を忘れないで、最上級生としての自覚を持ち、一中を引っ張り、しっかりと後輩を導いていきたいと思えます。先輩方に負けない、よき手本となれるよう頑張ります。◆優しく暖かな春風に包まれながら、これから新しい道、広い世界へと、新たなスタートを踏み出す卒業生の皆

さん。輝かしい未来への期待を胸に抱く反面、大きな環境の変化に対する不安も少なからずあると思えます。◆しかし、コロナ禍での様々な状況に、決して挫けず、笑顔を送ることを、笑顔を絶やさず中学校生活を送ってきた先輩方だからこそ、また、何気ない日常がどれほど大切な時間だったかを感じることもできた先輩方だからこそ、この先のどんな困難もきつと乗り越えられると信じています。卒業生の皆さん、今まで本当に、ありがとうございました。

卒業生の皆さんの、さらなるご活躍とご健康をお祈りして、送る言葉といたします。

保護者の皆様へ  
校長 ○○○○  
この度、三月末をもちまして定年退職を迎えることとなりました。保護者の皆様方におかれましては、本校教育活動にご理解・ご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。現在、教職員共々、次年度に向けた準備を全力で進めております。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



### 卒業生を送る言葉

### 第75回卒業式

